海洋安全保障情報月報

2011年2月号

目次

2011年2月の主要事象
1. 情報要約
　1.1　海洋治安
　1.2　軍事動向
　1.3　海洋境界
　1.4　外交・国際関係
　1.5　海運・造船・港湾
　1.6　海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他
2. 情報分析
　解題「南シナ海における最近の進展：慎重な楽観論の根拠?」

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。
リンク先 URL はいずれも、2011 年 2 月末現在、アクセス可能なものである。

発行者：秋山昌廣
執筆者：秋元一峰、今泉武久、上野英詞、酒井英次、関根大助、友森武久、向和歌奈、毛利亜樹、髙田祐子

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。

2011 年 2 月の主要事象

海洋治安：米テキサス州の the global security consultancy、Stratfor は、ソマリアの海賊がモンスーン期の荒海をも乗り切れるより大型の「母船」を使うことによって、2010 年にはこれまでの襲撃海域の限界を克服したばかりか、ハイジャック船を拘束する能力も強化した、と指摘している。

2 月はハイジャック事案が 6 件あった。その内、2 件はヨットがハイジャックされた事案である。特に、4 人米国人が乗ったヨット、SV *Quest* が 18 日、オマーン沖 240 カイリの海域でソマリアの海賊にハイジャックされた事案は、悲劇的な結末となった。米海軍特殊部隊がヨットに接近した時、4 人の米国人は死亡していた。ソマリアの海賊に米国人が殺されたのは、これが初めてである。

一方で、各国海軍部隊による、海賊グループの拘束、「母船」や小型ボートの破壊事案も増えた。インド海軍の発表によれば、インド海軍と沿岸警備隊は 6 日早朝、ラクシャドウィープ諸島沖のインド領海内で、ソマリアの海賊の「母船」として利用されていた、タイのトロール漁船、FV *Prantalay 11* に乗った海賊と銃撃戦の末、28 人の海賊容疑者を拘束し、漁民 24 人を救出した。英海軍フリゲート、HMS *Cornwall* は 10 日、インド洋でイエメン籍船のダウ船を捜索した。該船には 22 人が乗っており、また該船が海賊の「母船」としてこの海域で活動していたことを伺わせる、船外機付きの小型ボート 3 隻、梯子などの海賊の装備類を発見した。乗っていた 22 人の内、5 人はイエメン人漁民で、92 日間に亘って拘束されていた。NATO 艦隊に所属するデンマーク海軍フリゲート、HDMS *Esbern Snare* は 11 日早朝、ソマリア沖で、甲板上に 2 隻の小型ボートを積んだ、海賊の「母船」と見られる漁船を発見し、警告射撃で同船を停船させ、16 人の海賊容疑者を拘束し、2 人のイエメン人漁民を解放した。

ソマリアの海賊は 25 日、日本の日之出郵船株式会社が運航するパナマ籍船の貨物船、MV *Izumi*（20,170DWT）を解放した。該船は、2010 年 10 月 10 日にモガディシュ南方海域でハイジャックされた。MV *Izumi* は、ソマリアの海賊の「母船」として利用されていたようである。2010 年 11 月 8 日付けの EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release によれば、スペイン海軍コルベット、SPS *Infanta Cristina* は 11 月 6 日夜、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊がチャーターしたモガディシュへの食料運搬船、MV *Petra 1* を護衛中、MV *Izumi* に乗った海賊から銃撃された。同艦は、人質となっている該船乗組員（フィリピン人 20 人）を危険にさらさないために、反撃を最小限の自衛措置に止めた。MV *Izumi* は逃走した。また、EU 艦隊によれば、ソマリア近海で 11 月 5 日、海賊襲撃グループが MV *Izumi* から小型ボートに乗り換え、航行中の船舶を襲撃したのが確認されたという。

軍事動向：米国の the U.S. Naval Institute のメンバーで、軍事技術者、ジェフ・ヘッドによれば、中国海軍空母、「施琅」（旧名、「ワリヤーグ」）の改修が兵器システムや電子機器を取り付ける最終段階に入ったようである。ヘッドや他の専門家の見方では、中国海軍は「施琅」を 2011 年～2012 年の間に進水させ、空母運用に向けての海上公試と訓練を始めるであろうという。

イラン海軍の 2 隻の戦闘艦、フリゲート、the *Alvand* と補給艦、the *Kharg* は 22 日、スエズ運河を通峡して、地中海に出た。イラン当局は、2 隻は訓練任務でシリアに向かうことを明らかにしている。

中国海軍は 24 日、アデン湾・ソマリア海域で護衛任務にあたっている中国海軍の第 7 次護衛艦隊から誘導ミサイル・フリゲート、「徐州」をリビア駐在の中国人の国外退避を支援するためにリビア

周辺海域に派遣した。中国が海外在住の中国人同胞を救出するための軍事力を動員するのはこれが初めてである。

海洋境界：バングラデシュは 25 日、国連大陸棚限界委員会（CLCS）に対して、ベンガル湾の大陸棚延長申請を提出した。この申請は、ベンガル湾の 400～500 平方カイリの海域を対象としている。

外交・国際関係：インドネシアは、2011 年の ASEAN 議長国である。ユドヨノ大統領は 18 日、「朝日新聞」との会見で、議長国としての最優先課題の 1 つが、中国を多国間協議に参加させることで、南シナ海問題の進展を図ることである、と述べている。ジャカルタの the Centre for Strategic and International Studies のラクスマナ研究員は、Web 誌、The Diplomat に、"Jakarta Eyes South China Sea" と題する論考を寄稿している。ラクスマナは、the 'nine-dotted line' 地図で示される中国の領有権主張がインドネシア最大の天然ガス田を持つナトゥナ諸島周辺海域にまで及んでいることなどを指摘し、インドネシアが南シナ海問題に関心を持つ背景を論じている。

モルディブのナシード大統領は 25 日、訪問中のインドで、モルディブとインドの特別な関係を強調し、インド洋に多くのプレイヤーが参入する余地はない、と述べた。

海運・造船・港湾：デンマークの海運大手、Maersk Line は 21 日、超大型のコンテナ船 10 隻を、総額 190 億米ドルで韓国の大宇造船海洋に発注した、と発表した。新型船、"Triple-E" は、同社運航の最大のコンテナ船よりも 2,500 個も多い 1 万 8,000 このコンテナを積載でき、史上最大のコンテナ船となる。1 番船は 2013 年の就役が予定されており、アジアと欧州間の航路に投入される。

海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他：インドネシアとスリランカの両国の漁業担当相はこのほど、コロンボで会談し、漁業分野での 2 国間協力を強化することになった。両相はこの会談で、漁業貿易、漁業訓練の実施、専門家の交流などの面で協力関係を強化するために、2011 年第 1 四半期内に、漁業開発協力協定を締結することで合意した。

情報分析：オーストラリア国防大学のカーライル・セイヤー教授は 2010 年 12 月、シンガポールのラジャラトナム国際関係研究所のワーキングペーパーとして、『南シナ海における最近の進展：慎重な楽観論の根拠？（"Recent Development in the South China Sea: Grounds for Cautious Optimism?"）』と題する 33 頁の論文を発表した。情報分析では、この論文を解題した。

この論文は、以下の 4 つの問題を取り上げている。①中国政府関係者による「核心利益」発言と米中の海洋戦力を巡る対立。②ASEAN 地域フォーラム（ASEAN Regional Forum: ARF）や ASEAN プラス 8 国防相会議（ASEAN Defence Ministers Meeting Plus Eight: ADMM Plus Eight）などに見る南シナ海の問題に関する外交舞台での駆け引き。③南シナ海での海洋権益を巡る中国とベトナムの折衝。④中国・ASEAN ワーキング・グループにおける「南シナ海における関係諸国行動宣言」（the Declaration on Conduct of Parties in South China Sea）を巡る論議の状況。

1. 情報要約

1.1　海洋治安

2 月 1 日「フィンランド、EU 艦隊に参加、任務開始」（Defence Web, February 2, 2011）

フィンランド海軍の機雷敷設艦、FNS *Pohjanmaa* は 1 月 29 日にジブチに到着し、2 月 1 日から EU 艦隊での任務を開始した。同国の戦闘艦派遣は今回が初めてである。

記事要旨：フィンランド海軍の機雷敷設艦、FNS *Pohjanmaa* は 1 月 29 日にジブチに到着し、2 月 1 日から EU 艦隊での任務を開始した。フィンランドは、2008 年 12 月から始まった、EU 艦隊による海賊対処活動、Operation Atalanta には、特に海賊対処の法的問題を担当する将校を、現地の艦隊司令部と英国ノースウッドの本部に派遣してきた。しかし、戦闘艦の派遣は今回が初めてである。同艦はフィンランド海軍唯一の機雷敷設艦（排水量 1,400 トン）で、海軍の旗艦でもある。乗組員は 90 人である。

記事参照：Finnish Navy fighting piracy off Somalia in historic move
http://www.defenceweb.co.za/index.php?option=com_content&view=article&id=13392:finnish-navy-fighting-piracy-off-somalia-in-historic-move&catid=51:Sea&Itemid=106

2 月 2 日「ソマリアの海賊、襲撃海域を大幅に拡大」（UPI, February 2, 2011）

米テキサス州の the global security consultancy、Stratfor は、ソマリアの海賊がモンスーン期の荒海をも乗り切れるより大型の「母船」を使うことによって、2010 年にはこれまでの襲撃海域の限界を克服したばかりか、ハイジャック船を拘束する能力も強化した、と指摘している。

記事要旨：米テキサス州の the global security consultancy、Stratfor の分析によれば、ソマリアの海賊による襲撃海域は、ソマリア沿岸の根拠地から 2,500 カイリも離れたインド洋にまで拡大しており、各国海軍部隊の哨戒海域をはるかに超えている。Stratfor は、ソマリアの海賊がモンスーン期の荒海をも乗り切れるより大型の「母船」を使うことによって、2010 年にはこれまでの襲撃海域の限界を克服したばかりか、ハイジャック船を拘束する能力も強化した、と指摘している。Stratfor によれば、海が荒れる 1 月から 3 月と 8 月から 10 月までは、例年、襲撃事案が減少していたが、ソマリアの海賊は、より大型の「母船」を使うことで、通年に及ぶ襲撃能力を確保し、より多くの身代金を得るようになった。フォックス（VADM Mark Fox）米中央軍司令官兼第 5 艦隊司令官は 1 月 27 日、8 個ほどの海賊襲撃グループ（"pirate attack groups"）が母船を使用している、と述べている。

記事参照：Somali pirates get smarter, more ambitious
http://www.upi.com/Top_News/Special/2011/02/02/Somali-pirates-get-smarter-more-ambitious/UPI-10931296672235/

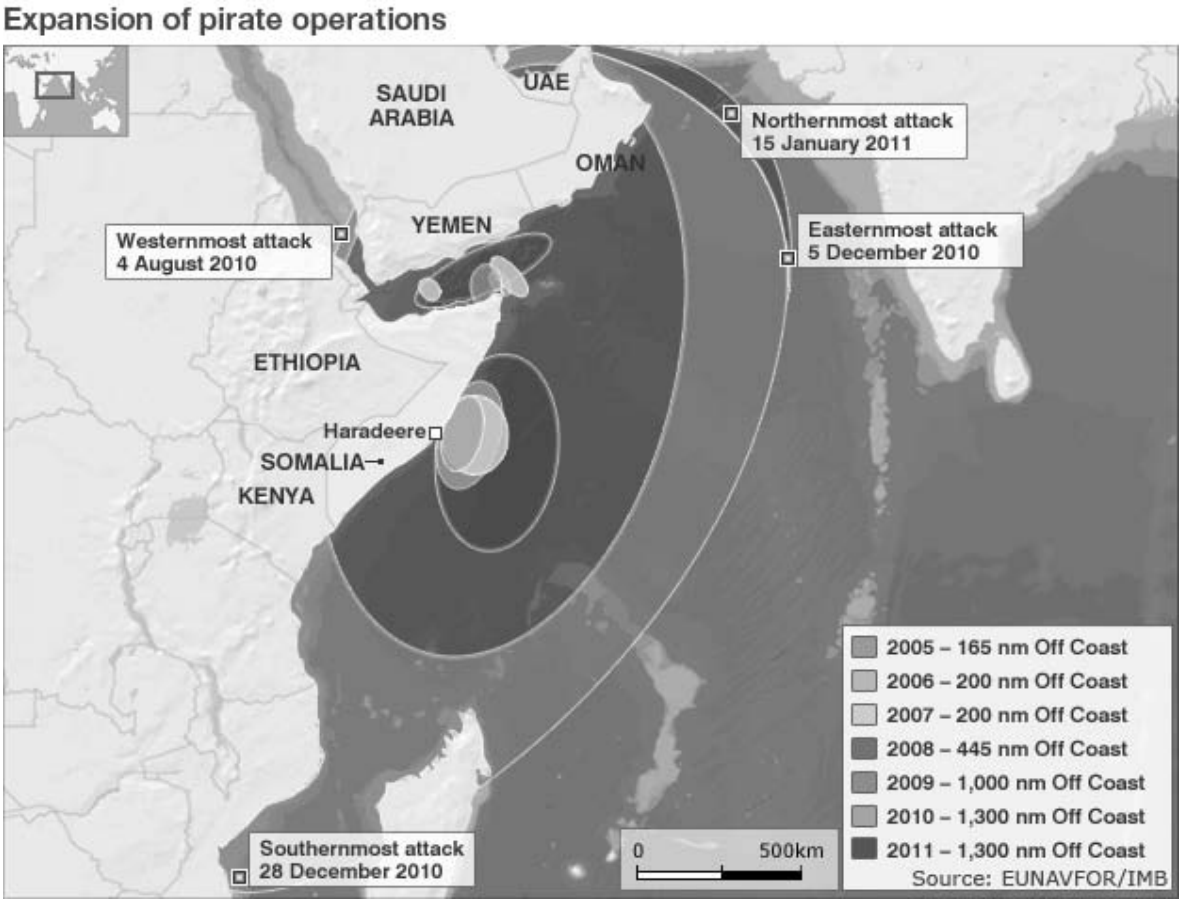
【備考】

以下は、2005 年からのソマリアの海賊による襲撃海域の拡大を示したものである。これによれば、最東端の襲撃海域は、インドのコーチン西方約 275 カイリのラクシャドウィープ諸島周辺海域で、バングラデシュ船籍のばら積船、MV *Jahan Moni*（44,377DWT）が 2010 年 12 月 5 日夜、ソマリア

の海賊にハイジャックされた。この海域は、ソマリアの海賊によるハイジャック事案としては最もインドに近い海域である。（OPRF 海洋安全保障情報月報 2010 年 12 月号 1.1 海洋治安参照）

最北端の襲撃海域はオマーンのマスカット港南東約 350 カイリの海域で、ソマリアの海賊は 2011 年 15 日朝、マルタ籍船で韓国の船社所有の精製品タンカー、MT *Samho Jewelry*（19,609DWT）をハイジャックした。該船は、韓国の海賊対処部隊によって 1 月 21 日未明、武力解放された。（OPRF 海洋安全保障情報月報 2011 年 1 月号 1.1 海洋治安参照）

最南端の襲撃海域はモザンビーク海峡で、2010 年 12 月 28 日にモザンビークの漁船、FV *Vega 5* がハイジャックされた事案である。最西端はバブエルマンデブ海峡北西約 220 カイリの紅海で、襲撃未遂事案である。



Source: BBC News, February 10, 2011

【関連記事】

「南ア、モザンビーク海峡哨戒部隊編成へ」（All Africa, February 3, 2011）

南アフリカ海軍は 2 日、ソマリアの海賊による脅威に対処するために、モザンビーク海峡を哨戒する部隊を編成する、と発表した。哨戒部隊はフリゲート 1 隻と補給支援艦 1 隻で編成され、哨戒期間は 2 月半ばから 1 カ月間である。

記事要旨：南アフリカ海軍は 2 日、ソマリアの海賊による脅威に対処するために、モザンビーク海峡を哨戒する部隊を編成する、と発表した。哨戒部隊はフリゲート 1 隻と補給支援艦 1 隻で編成され、哨戒期間は 2 月半ばから 1 カ月間である。フリゲートにはヘリも搭載される。モザンビーク海峡では、2010 年 12 月 28 日にモザンビークの漁船、FV *Vega 5* がハイジャックされており、南アの軍事専門

家は、海賊の脅威がモザンビーク海峡にまで及んできたことに懸念を示していた。

記事参照：South African Navy to Patrol Channel

http://allafrica.com/stories/201102040279.html

2 月 2 日「ソマリアの海賊、台湾漁船を解放」（RTT News, February 2, 2011）

2010 年 5 月 6 日にモルディブの沖合でソマリア海賊にハイジャックされた台湾漁船、*Tai Yuan 227*（泰源 227 號）は 2 日、乗組員 28 人と共に解放され、スリランカのコロンボ港に到着した。該船は、海賊の母船として使用されていた。

記事要旨：スリランカ外務省によれば、2010 年 5 月 6 日にモルディブの沖合でソマリア海賊にハイジャックされた台湾漁船、*Tai Yuan 227*（泰源 227 號）は 2 日、乗組員 28 人（中国人、ベトナム人、フィリピン人、インドネシア人、ケニア人、モザンビーク人）と共に解放され、スリランカのコロンボ港に到着した。該船は、海賊の母船として使用されていた。スリランカ外務省は、身代金が支払われたか否かについては言及しなかった。

記事参照：Somali Pirates Release Taiwan Fishing Boat

http://www.rttnews.com/Content/GeneralNews.aspx?Id=1542498&SM=1

2 月 6 日「インド海軍、ソマリアの海賊容疑者 28 人を拘束」（Deccan Herald, February 6, and Indian Navy Press Release, February 6, 2011）

インド海軍の発表によれば、インド海軍と沿岸警備隊は 6 日早朝、ラクシャドウィープ　諸島沖のインド領海内で、ソマリアの海賊の「母船」として利用されていた、タイのトロール漁船、FV *Prantalay 11* に乗った海賊と銃撃戦の末、28 人の海賊容疑者を拘束し、漁民 24 人を救出した。

記事要旨：インド海軍の発表によれば、インド海軍と沿岸警備隊は 6 日早朝、ラクシャドウィープ（Lakshadweep）諸島沖のインド領海内で、ソマリアの海賊の「母船」として利用されていた、タイのトロール漁船、FV *Prantalay 11* に乗った海賊と銃撃戦の末、28 人の海賊容疑者を拘束した。

インド海軍の発表では、5 日夕、インド海軍西部コマンドは、ラクシャドウィープ諸島のカバラッチ（Kavaratti）島西方約 100 カイリの海域で哨戒中の戦闘艦から、ギリシャ籍船の貨物船、MV *Chios* が小型高速ボートに乗った海賊から襲撃を受けているとの通報を受信した。該船は回避行動を取って、襲撃を免れた。インド海軍と沿岸警備隊は統合チームを編成し、周辺海域で海賊哨戒任務に当たっていた、海軍の訓練用フリゲート、INS *Tir*（海軍南部コマンド所属）と沿岸警備隊の巡視船、CGS *Samar*（西部管区所属）が小型ボートと「母船」の捜索に当たった。6 日早朝、2 隻の小型ボートを発見し停船を命じたが、2 隻は両艦船に発砲し、逃走を図った。両艦船は、「母船」に戻る 2 隻を追跡した。「母船」は、2010 年 4 月 18 日にインド洋でハイジャックされた 3 隻のタイの漁船、FV *Prantalay 11*、FV *Prantalay 12*、FV *Prantalay 14* の内、ナンバーから FV *Prantalay 11* と判明した。両艦船は無線でコンタクトを図ったが、「母船」から銃撃を受けた。両艦船から厳密な比例の原則に基づいて反撃したところ、「母船」は白旗を掲げて降伏した。両艦船は海賊容疑者 18 人を拘束し、24 人の漁民を救出した。「母船」は、海賊容疑者 18 人を収容した巡視船に曳航されてムンバイに向かった。

記事参照：Pirate ship captured, 52 held

http://www.deccanherald.com/content/135259/indian-navy-coast-guard-capture.html

PRESS RELEASE: ANTI-PIRACY ACTION; 05-0-6 FEB 11
http://xa.yimg.com/kq/groups/11561283/50981564/name/Press%20release%20Prantalay%2011.pdf

備考：ラクシャドウィープ諸島のミニコイ島とモルディブとの間の海域は「北緯 8 度海峡」（the 'eight-degree channel'）といわれ、1 日平均約 40 隻の船舶が航行している。

Source: http://4.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/TUMU9xPD4nI/AAAAAAAAKwk/EDGLkJoppHw/s1600/islands.jpg

小型ボートを積んだタイ漁船（左）と海に飛び込む海賊容疑者と漁民（右）

Source: left; http://4.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/TUMQXqR6enI/AAAAAAAAKwc/_0O5Xux3c7k/s1600/Prantalay.jpg
right; http://xa.yimg.com/kq/groups/11561283/144351153/name/DSC04118.JPG

備考：この事案に先立って、インド海軍と沿岸警備隊は 1 月 28 日、ラクシャドウィープ諸島沖 300

カイリの海域で、タイ漁船、FV *Prantalay* を乗っていたソマリアの海賊と交戦の末、該船を炎上させ、海賊 15 人を拘束し、タイとミャンマーの漁民 20 人を救助した。FV *Prantalay* は、2010 年 4 月 18 日にハイジャックされた 3 隻のタイ漁船の内の 1 隻で、ソマリアの海賊の「母船」として使われていた（ナンバー不明）。（本件事案については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2011 年 1 月号 1.1 海洋治安参照。）更に、インド海軍駆逐艦、INS *Krishna* は 2010 年 12 月 4 日夕、ラクシャドウィープ諸島のミニコイ島沖約 350 カイリの海域で、タイ籍船の漁船、*Prantalay 12* から海に投げ出されたタイ人乗組員を救助した。この漁船は、僚船の *Prantalay 11*、*Prantalay 14* と共に海賊の「母船」として使用されている。（本件事案については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2010 年 12 月号 1.1 海洋治安参照。）

これらの事案から類推すれば、タイ漁船 3 隻に内、依然、「母船」として利用されているのは、*Prantalay 12* あるいは *Prantalay 14* のいずれか 1 隻ということになる。

2 月 8 日「ソマリアの海賊、イタリアのタンカーをハイジャック」（EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, February 8, 2011）

イタリア籍船でイタリアの船社所有のタンカー、MT *Savina Caylyn*（104,255DWT）は 8 日早朝、ソコトラ島東方約 670 カイリのインド洋で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船の乗組員は 22 人である。

記事要旨：EU 艦隊の発表によれば、イタリア籍船でイタリアの船社所有のタンカー、MT *Savina Caylyn*（104,255DWT）は 8 日早朝、ソコトラ島東方約 670 カイリのインド洋で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は、原油を積んでスーダンのバシャール（Bashayer）からマレーシアのパジルグダン（Pasir Gudang）に向けて航行中に、1 隻の小型ボートに乗った 5 人の海賊から小火器と 4 基のロケット推進擲弾筒で襲撃され、乗り込まれた。該船の乗組員は、イタリア人 5 人とインド人 17 人の計 22 人である。

記事参照：Italian Oil Tanker Pirated in the Indian Ocean
http://www.eunavfor.eu/2011/02/italian-oil-tanker-pirated-in-the-indian-ocean/

MT *Savina Caylyn*

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, February 8, 2011

2 月 9 日「ソマリアの海賊、ギリシャの VLCC をハイジャック」（AFP, February 9, 2011）

ソマリアの海賊は 9 日、ギリシャ籍船で同国船社所有の VLCC、MT *Irene SL*（319,247DWT）を、オマーン沿岸東方約 220 カイリの海域でハイジャックした。該船の乗組員は 25 人である。

記事要旨：ソマリアの海賊は 9 日、ギリシャ籍船で同国船社所有の VLCC、MT *Irene SL*

（319,247DWT）を、オマーン沿岸東方約 220 カイリの海域でハイジャックした。該船は、約 27 万トン（約 190 万バレル）の原油を積んで、アラブ首長国連邦のフライジャからスエズ運河経由で米国に向かっていた。該船の乗組員は、ギリシャ人 7 人、グルジア人 1 人、フィリピン人 17 人の計 25 人である。

記事参照：Pirates seize laden supertanker off Oman
http://www.google.com/hostednews/afp/article/ALeqM5ht5Uum5TV5fI-X28slAxK38tYRIQ?docId=CNG.4f6d274f3aeb88a025c7211f3b0a1ee7.371

MT *Irene SL*

Source: BBC News, February 10, 2011

2 月 9 日「ソマリアの海賊、韓国漁船を解放」（AP, February 9, 2011）

ソマリアの海賊は 9 日、ケニア籍船で韓国のトロール漁船、FV *Keummi 305*（FV *Golden Wave*）を解放した。該船の乗組員は 43 人で、2010 年 10 月 9 日にケニア沖でハイジャックされた。

記事要旨：韓国外交通商部によれば、ソマリアの海賊は 9 日、ケニア籍船で韓国の水産会社所属のトロール漁船、FV *Keummi 305*（FV *Golden Wave*）を解放した。該船の乗組員はケニア人 39 人、韓国人 2 人、中国人 2 人の計 43 人である。該船は、2010 年 10 月 9 日にケニア沖でハイジャックされた。身代金については、情報がない。

記事参照：Somali pirates free South Korean ship and 43 crew
http://www.google.com/hostednews/ap/article/ALeqM5jsKot6NhXwQkpv_MBEv_12ou7XLw?docId=a7bf0628b3884763a8fbbab0d04f86eb

2 月 10 日「英海軍戦闘艦、海賊の『母船』を解放」（Royal Navy HP, February 11, 2011）

英海軍フリゲート、HMS *Cornwall* は 10 日、インド洋でイエメン籍船のダウ船を捜索した。該船には 22 人が乗っており、また該船が海賊の「母船」としてこの海域で活動していたことを伺わせる、船外機付きの小型ボート 3 隻、梯子などの海賊の装備類を発見した。乗っていた 22 人の内、5 人はイエメン人漁民で、92 日間に亘って拘束されていた。

記事要旨：多国籍海賊対処部隊、CTF-151 に所属する英海軍フリゲート、HMS *Cornwall* は 10 日、インド洋で不審なダウ船を発見した。同艦から臨検チームがイエメン籍船のダウ船に向かい、該船を捜索した。該船には 22 人が乗っており、また該船が海賊の「母船」としてこの海域で活動していたことを伺わせる、船外機付きの小型ボート 3 隻、梯子などの海賊の装備類を発見した。英海軍は翌 11 日、該船がソマリアの海賊の「母船」であったことを確認した。乗っていた 22 人の内、5 人はイエメン人漁民で、92 日間に亘って拘束されていた。以下はその時の様子である。

記事参照：HMS Cornwall Frees Hostages From Pirates
http://www.royalnavy.mod.uk/operations-and-support/surface-fleet/type-22-frigates/hms-cornwall/news/hms_cornwall_frees_h.htm

Source: http://www.royalnavy.mod.uk/operations-and-support/surface-fleet/type-22-frigates/hms-cornwall/news/hms_cornwall_frees_h.htm

2 月 11 日「デンマーク海軍戦闘艦、ハイジャック漁船を解放」（Allied Maritime Command Headquarters, News Release, February 13, 2011）

NATO 艦隊に所属するデンマーク海軍フリゲート、HDMS *Esbern Snare* は 11 日早朝、ソマリア沖で、甲板上に 2 隻の小型ボートを積んだ、海賊の「母船」と見られる漁船を発見し、警告射撃で同船を停船させ、16 人の海賊容疑者を拘束し、2 人のイエメン人漁民を解放した。

記事要旨：NATO 艦隊に所属して、海賊対処任務、Operation Ocean Shield 作戦を遂行中のデンマーク海軍フリゲート、HDMS *Esbern Snare* は 11 日早朝、ソマリア沖でハイジャック漁船を解放した。HDMS *Esbern Snare* は、甲板上に 2 隻の小型ボートを積んだ、海賊の「母船」と見られる漁船を発見し、調査のため艦載ヘリを発進させ、警告射撃で同船を停船させ、乗組員を降服させた。HDMS *Esbern Snare* の臨検チームが同船に乗り込み、16 人の海賊容疑者を拘束し、2 人のイエメン人漁民を解放した。また、AK-47 強襲ライフル、ロケット推進擲弾筒、弾薬を含む武器類を押収した。HDMS *Esbern Snare* の指揮官は、「我々は、海賊の『母船』を捕獲することに成功した。これらの船は、『浮かぶ海賊基地』として遠隔の海域での襲撃に用いられている」と述べた。以下は、そのときの様子である。

記事参照：NATO WARSHIP FREES PIRATED FISHING VESSEL
http://www.manw.nato.int/pdf/Press%20Releases%202011/Press%20releases%20Jan-June%202011/SNMG2/20110211-Press%20Release%20Snare%20liberation-SNMG2SPAO-V1%200-U-10.pdf

Source: http://www.manw.nato.int/Images/SNMG2%202011/20110211-Press%20Release%20ESBN%20dhow%2011%20Feb%2011.jpg

2 月 12 日「ソマリアの海賊、マルタ籍船をハイジャック」（EU NAVFOR Public Affairs Office, Press release, February 13, 2011）

ソマリアの海賊は 12 日、マルタ籍船の同国船社所有のばら積船、MV *Sinin* を、オマーンのマシラ島東方約 350 カイリの北アラビア海でハイジャックした。該船の乗組員は 23 人である。

記事要旨：ソマリアの海賊は 12 日、マルタ籍船の同国船社所有のばら積船、MV *Sinin*（52,466DWT）を、オマーンのマシラ島東方約 350 カイリの北アラビア海でハイジャックした。該船の乗組員は、イラン人 13 人、インド人 10 人の計 23 人である。該船は、アラブ首長国連邦のフラージャからシンガポールに向かっていた。

記事参照：MV SININ believed pirated in the Arabian Sea.

http://www.eunavfor.eu/2011/02/mv-sinin-believed-pirated-in-the-arabian-sea/

MV *Sinin*

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press release, February 13, 2011

2 月 18 日「ソマリアの海賊、ヨットをハイジャック、乗り組みの米国人 4 人を殺害」（CBS News, February 23, 2011）

4 人米国人が乗ったヨット、SV *Quest* が 18 日、オマーン沖 240 カイリの海域でソマリアの海賊にハイジャックされた。その後、米海軍は、戦闘艦 4 隻と無人偵察機でヨットを監視してきた。翌、22

日朝、ヨットから約 600 ヤード離れていた同艦に向けてロケット推進擲弾が発射された。米第 5 艦隊によれば、擲弾は命中しなかったが、直後に、ヨットから小銃の発射音が聞こえた。米海軍特殊部隊がヨットに近づくと、海賊は船首に集まり、降伏した。その際、特殊部隊は、2 人の海賊を射殺した。ヨットからも 2 人の海賊の死体が発見された。また、ヨットに乗っていた 4 人の米国人は致命傷を負っており、死亡した。

記事要旨：4 人米国人が乗ったヨット、SV *Quest* が 18 日、オマーン沖 240 カイリの海域でソマリアの海賊にハイジャックされた。その後、米海軍は、戦闘艦 4 隻と無人偵察機でヨットを監視してきた。21 日、ヨットから 2 人の海賊が誘導ミサイル駆逐艦、USS Sterett に人質解放のための交渉に来艦し、1 泊した。翌、22 日朝、ヨットから約 600 ヤード離れていた同艦に向けてロケット推進擲弾が発射された。米第 5 艦隊によれば、擲弾は命中しなかったが、直後に、ヨットから小銃の発射音が聞こえた。米海軍特殊部隊がヨットに近づくと、海賊は船首に集まり、降伏した。その際、特殊部隊は、2 人の海賊を射殺した。ヨットからも 2 人の海賊の死体が発見された。海賊間で銃撃があったかどうかは不明という。また、ヨットに乗っていた 4 人の米国人は致命傷を負っていた。ソマリアの海賊に米国人が殺されたのは、これが初めてである。この殺害は、海賊による人質の扱いがますます暴力的になって来ていることを示しているようである。ある海賊は、「人質の殺害は我々のルールとなってきた」と述べ、2 月 16 日に 2009 年 4 月の米国船、MV *Maersk Alabama* のハイジャック事案で起訴されたソマリアの海賊が 33 年の刑を言い渡されたことに言及した。

記事参照：4 Americans on hijacked yacht dead off Somalia

http://www.cbsnews.com/stories/2011/02/22/501364/main20034691.shtml

SV *Quest*

Source: http://www.svquest.com/Home/wGennaker.jpg

2 月 24 日「マダガスカル、ハイジャック船を捜索」（AFP, February 24, 2011）

マダカスカル当局によれば、2010 年 11 月 3 日にハイジャックされたコモロ籍船の小型客船、MV *Aly Zulfecar* の船長と 2 人の海賊容疑者を含む 6 人が 24 日、小型ボートで同国北部のアンツィラナナ港に着き、救助を求めた。当局は、該船の捜索を開始した。

記事要旨：マダカスカル当局によれば、2010 年 11 月 3 日にハイジャックされたコモロ籍船の小型客船、MV *Aly Zulfecar* の船長と 2 人の海賊容疑者を含む 6 人が 24 日、小型ボートで同国北部のアンツィラナナ（Antsiranana）港に着き、救助を求めた（ハイジャック時の該船には、乗組員 9 人と

乗客 20 人が乗っていた)。当局は、該船の捜索を開始した。該船は、ソマリアの海賊の根拠地、中部のホビョーから「母船」として利用されていた。当局によれば、海賊容疑者が自首して出るのは初めてという。（本件ハイジャック事案については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2010 年 11 月号 1.1 海洋治安及び「トピック」参照）

マダカスカル海軍は 27 日、MV *Aly Zulfecar* を確保し、アンツィラナナ港に曳航した。海軍によれば、該船は燃料切れで漂流していた。（AFP, February 28, 2011）

記事参照：Madagascar searches for pirated Comoros ship
http://www.google.com/hostednews/afp/article/ALeqM5jLXA1S11DaqBCsQYFfHSYRjuvmGw?docId=CNG.b8be1fa9ceeaf77e3700b0e75ec87ead.431

MV *Zulfecar*

Source: http://www.shipping.nato.int/Zoulfecar

2 月 24 日「ソマリアの海賊、デンマークのヨットをハイジャック」（The New York Times, March 1, 2011）

子供 3 人を含む 7 人のデンマーク人が乗ったヨット、SY *Ing* が 24 日、アラビア海南部でソマリアの海賊にハイジャックされ、ヨットはソマリア沿岸に向かっているという。

記事要旨：デンマーク外務省は 28 日、子供 3 人を含む 7 人のデンマーク人が乗ったヨット、SY *Ing* が 24 日、アラビア海でハイジャックされたことを明らかにした。外務省は、発表が遅れた理由について明らかにしていない。海賊ウォッチャーの Ecoterra International によれば、ヨットは、「アフリカの角」からかなり遠隔のアラビア海南部でソマリアの海賊にハイジャックされ、ソマリア沿岸に向かっているという。

記事参照：Pirates Hijack Vessel Carrying 7 Danes, Including 3 Children
http://www.nytimes.com/2011/03/01/world/africa/01pirates.html?ref=world

The Danish yacht was taken shortly after four Americans were killed.

Source: The New York Times, March 1, 2011

2 月 25 日「ソマリアの海賊、日本関係船を解放」（EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, February 28, 2011）

ソマリアの海賊は 25 日、日本の日之出郵船株式会社が運航するパナマ籍船の貨物船、MV *Izumi*（20,170DWT）を解放した。該船は、2010 年 10 月 10 日にモガディシュ南方海域でハイジャックされた。

記事要旨：ソマリアの海賊は 25 日、日本の日之出郵船株式会社が運航するパナマ籍船の貨物船、MV *Izumi*（20,170DWT）を解放した。該船は、鋼材を積んでケニアのモンバサに向かう途中、2010 年 10 月 10 日にモガディシュ南方海域でハイジャックされた。該船の乗組員は 20 人で、全員フィリピン人である。（本件ハイジャック事案については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2010 年 10 月号 1.1 海洋治安参照。）

記事参照：MV IZUMI Released from Pirate Control

http://www.eunavfor.eu/2011/02/mv-izumi-released-from-pirate-control/

MV *Izumi*

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, October 11, 2010

備考：MV *Izumi* は、ソマリアの海賊の「母船」として利用されていたようである。2010 年 11 月 8

日付けの EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release によれば、スペイン海軍コルベット、SPS *Infanta Cristina* は 11 月 6 日夜、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊がチャーターしたモガディシュへの食料運搬船、MV *Petra 1* を護衛中、MV *Izumi* に乗った海賊から銃撃された。同艦は、人質となっている該船乗組員（フィリピン人 20 人）を危険にさらさないために、反撃を最小限の自衛措置に止めた。MV *Izumi* は逃走した。また、EU 艦隊によれば、ソマリア近海で 11 月 5 日、海賊襲撃グループが MV *Izumi* から小型ボートに乗り換え、航行中の船舶を襲撃したのが確認されたという。

2 月 28 日「ソマリアの海賊、パナマ籍船をハイジャック」（EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, February 28, 2011）

パナマ籍船でギリシャの船社所有のばら積船、MV *Dover* は 28 日早朝、オマーンのサラーラ北東約 260 カイリの北アラビア海で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船の乗組員は、23 人である。

記事要旨：パナマ籍船でギリシャの船社所有のばら積船、MV *Dover* は 28 日早朝、オマーンのサラーラ北東約 260 カイリの北アラビア海で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は、パキスタンのポート・クァシム（Port Quasim）からイエメンのサリーフ（Saleef）に向けて航行中であった。該船の乗組員は、ルーマニア人 3 人、ロシア人 1 人、フィリピン人 19 人の計 23 人である。

記事参照：MV DOVER pirated in the North Arabian Sea

http://www.eunavfor.eu/2011/02/mv-dover-pirated-in-the-north-arabian-sea/

MV *Dover*

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, February 28, 2011

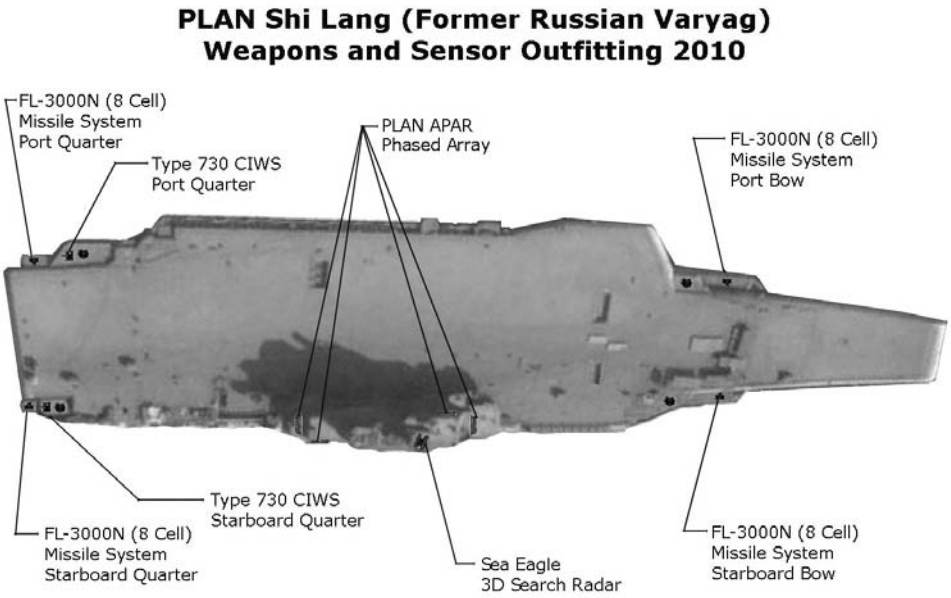
1.2　軍事動向

2 月 4 日「中国海軍空母、『施琅』、改修最終段階に」（The Rising Sea Dragon in Asia, February 4, 2011）

中国海軍空母、「施琅」（旧名、「ワリヤーグ」）の改修が兵器システムや電子機器を取り付ける最終段階に入ったようである。専門家の見方では、中国海軍は「施琅」を 2011 年～2012 年の間に進水させ、空母運用に向けての海上公試と訓練を始め、国産空棒の配備に備えて、海上公試と訓練は数年間継続されるという。

記事要旨：米国の the U.S. Naval Institute のメンバーで、軍事技術者、ジェフ・ヘッド（Jeff Head）によれば、中国海軍空母、「施琅」（旧名、「ワリヤーグ」）の改修が兵器システムや電子機器を取り付ける最終段階に入ったようである。ヘッドや他の専門家の見方では、中国海軍は「施琅」を 2011 年～2012 年の間に進水させ、SU-33 あるいは空母搭載型に改良した国産の J-11 を搭載して、空母運用に向けての海上公試と訓練を始めるであろう。今後 10 年以内と予測される、1 隻あるいはそれ以上の国産空母の配備に備えて、海上公試と訓練は数年間継続されるという。

記事参照：Varyag Transformation: Final outfitting of weapons systems and radar sensors.
http://www.freewebs.com/jeffhead/redseadragon/varyagtransform.htm



This overhead shows the relative positioning of the CIWS guns and missile weapons systems and radars that are being fitted.

Source: http://www.freewebs.com/jeffhead/redseadragon/2010-Overhead.jpg

Outfitting of sensors on the Island continues in early 2011.

Source: http://www.jeffhead.com/redseadragon/varyag-wl-04-012011.jpg

Rendering/artists conception of Shi Lang completed

Source: http://www.jeffhead.com/worldwideaircraftcarriers/ShiLang-02.jpg

2 月 12 日「インド、米国製海上哨戒機追加購入へ」StrategicWorld.Com, Feb 12, 2011）

インドは 12 日、インド洋における中国の海軍活動の増大に対応するために、米国製海上哨戒機、P-8I を新たに 4 機購入することを決定した。インドは 3 年前に、1 機当たり約 2,200 万米ドルで、P-8 海上哨戒機を 8 機購入した。

記事要旨：インドは 12 日、インド洋における中国の海軍活動の増大に対応するために、米国製海上哨戒機、P-8I を新たに 4 機購入することを決定した。インドは 3 年前に、1 機当たり約 2,200 万米ドルで、P-8 海上哨戒機を 8 機購入した。これは、インド海軍の 8 機の現有ロシア製 Tu-142M の維持費が嵩むことから、より高性能の哨戒機に変更するもので、P-8I の 1 番機は 2014 年に配備されることになっている。P-8 は、Boeing 737 をベースにした海上哨戒機である。

記事参照：India Seeks More Cures For Chinese Subs

http://www.strategypage.com/htmw/htnavai/articles/20110212.aspx

2 月 22 日「イラン海軍戦闘艦、スエズ運河通峡」（BBC News, February 22, 2011）

イラン海軍の 2 隻の戦闘艦、フリゲート、the *Alvand* と補給艦、the *Kharg* は 22 日、スエズ運河を通峡して、地中海に出た。イラン当局は、2 隻は訓練任務でシリアに向かうことを明らかにしている。

記事要旨：イラン海軍の 2 隻の戦闘艦、フリゲート、the *Alvand* と補給艦、the *Kharg* は 22 日、スエズ運河を通峡して、地中海に出た。イラン当局は、2 隻は訓練任務でシリアに向かうことを明らかにしている。1979 年のイスラム革命以来、同国の海軍艦艇がスエズ運河を通峡するのは、これが初めてと見られる。エジプトは、戦時以外に、他国軍艦のスエズ運河の通峡を拒否できない。

記事参照：Iran warships sail via Suez Canal amid Israeli concern

http://www.bbc.co.uk/news/world-middle-east-12533803

The *Alvand*

The *Kharg*

Source: BBC News, February 21, 2011

2 月 24 日「中国、リビアからの同胞の国外退避支援に誘導ミサイル・フリゲート派遣」（China SignPost, February 24, 2011）

中国海軍は 24 日、アデン湾・ソマリア海域で護衛任務にあたっている中国海軍の第 7 次護衛艦隊から誘導ミサイル・フリゲート、「徐州」をリビア駐在の中国人の国外退避を支援するためにリビア周辺海域に派遣した。中国が海外在住の中国人同胞を救出するための軍事力を動員するのはこれが初めてである。

記事要旨：中国海軍は 24 日、アデン湾・ソマリア海域で護衛任務にあたっている中国海軍の第 7 次護衛艦隊から誘導ミサイル・フリゲート、「徐州」をリビア周辺海域に派遣した。「徐州」は、リビア駐在の中国人の国外退避を支援し、護衛する。「徐州」の派遣は、重要な転機をなすものである。実際の紛争地域から中国人同胞を救出するための非戦闘後送作戦（a non-combatant evacuation operation: NEO）を支援するために、中国が軍事力を動員するのはこれが初めてだからである。今回の派遣は、在外中国人同胞が危機に曝された場合に、彼らの生命財産を護るための今後の軍事作戦の先例となろう。

記事参照：China dispatches warship to protect Libya evacuation mission
http://www.chinasignpost.com/2011/02/china-dispatches-warship-to-protect-libya-evacuation-mission-marks-the-prc%e2%80%99s-first-use-of-frontline-military-assets-to-protect-an-evacuation-mission/

「徐州」は 28 日、スエズ運河を通峡し、地中海に入った。リビア周辺海域には、3 月 2 日に到着する予定である。（Xinhua, February 28, 2011）

誘導ミサイル・フリゲート、「徐州」

Source: http://japanese.china.org.cn/politics/txt/2011-02/25/content_22005553.htm

1.3　海洋境界

2 月 27 日「バングラデシュ、大陸棚限界延長申請」（Gulf News, February 28, 2011）

バングラデシュは 25 日、国連大陸棚限界委員会（CLCS）に対して、ベンガル湾の大陸棚延長申請を提出した。

記事要旨：バングラデシュ外務省が 27 日に明らかにしたところによれば、同国は 25 日、国連大陸棚限界委員会（CLCS）に対して、同国の大陸棚延長申請を提出した。同国のモニ外相は、「この申請は、ベンガル湾の大陸棚に関する独立以来最も重要な境界申請で、400～500 平方カイリの海域を対象とする」と述べている。

記事参照：Bangladesh lodges claim on extended continental shelf to UN
http://gulfnews.com/news/world/other-world/bangladesh-lodges-claim-on-extended-continental-shelf-to-un-1.768816

1.4　外交・国際関係

2 月 23 日「南シナ海問題―インドネシアの関心」（The Diplomat, February 23, 2011）

インドネシアは、2011 年の ASEAN 議長国である。ユドヨノ大統領は 18 日、「朝日新聞」との会見で、議長国としての最優先課題の 1 つが、中国を多国間協議に参加させることで、南シナ海問題の進展を図ることである、と述べている。ジャカルタの the Centre for Strategic and International Studies のラクスマナ（Evan A. Laksmana）研究員は、Web 誌、The Diplomat に、“Jakarta Eyes South China Sea” と題する論考を寄稿している。ラクスマナは、the ‘nine-dotted line’ 地図で示される中国の領有権主張がインドネシア最大の天然ガス田を持つナトゥナ諸島周辺海域にまで及んでいることなどを指摘し、インドネシアが南シナ海問題に関心を持つ背景を論じている。

記事要旨：インドネシアは、2011 年の ASEAN 議長国である。ユドヨノ大統領は 18 日、「朝日新聞」との会見で、議長国としての最優先課題の 1 つが、中国を多国間協議に参加させることで、南シナ海問題の進展を図ることである、と述べている。ジャカルタの the Centre for Strategic and International Studies のラクスマナ（Evan A. Laksmana）研究員は、Web 誌、The Diplomat に、“Jakarta Eyes South China Sea” と題する論考を寄稿し、南シナ海問題に対するインドネシアの関心について、要旨以下の諸点を指摘している。

①インドネシアは領有権を主張する沿岸国ではないが、南シナ海問題に重大な関心を持っている。何故なら、the ‘nine-dotted line’ 地図で示される中国の領有権主張が、約 300 の島嶼群からなるインドネシア最大の天然ガス田を持つナトゥナ諸島周辺海域にまで及んでいるからである。ジャカルタは、1990 年代から、中国の主張について明確な説明を求めてきたが、今日まで十分な説明を得ていない。この戦略的に重要な海域における不安定な状況が、1996 年と 2008 年にインドネシアがこの海域でかつてない大規模な統合軍事演習を実施した所以である。また、インドネシアが近年、オーストラリア、インド及び米国との戦略的な安全保障パートナーシップを進めているのも、その背景には中国の主張がある。

②一方で、中国との関係は、全般的には改善されてきている。2005 年には、戦略的パートナーシップ協定が締結され、貿易、投資、防衛及び教育分野での協力が進んでいる。しかしながら、ジャカルタの指導層には、特に中国の急速な軍事力増強、軍事における透明性の欠如、そして南シナ海における強固な姿勢を巡って、依然として対中不信感が根強い。就中、南シナ海問題は、長期的な両国関係を占う真のリトマス試験紙となっている。

③南シナ海問題は、貿易、漁業及び天然資源開発におけるインドネシアの生命線でもある、北部地域において潜在的な紛争要因となっている。このため、インドネシア外務省は 1990 年以来、南シナ海問題に関するトラック 2 の非公式なワークショップや専門家会合を主導してきた。これらの会合を通じて、捜索救難活動や海洋科学調査などの具体的な活動を話し合ってきた。一部の専門家は、こうした会合が 2002 年の ASEAN と中国間の「行動宣言」（DOC）の実現をもたらした、と評価している。

④南シナ海問題は常に、域内の会合において、最も論議を呼び軋轢を生む問題の 1 つであった。この問題は、ASEAN の団結にひびを入れ、時に紛争の平和的解決という「ASEAN 方式」を危うくしてきた。1974 年から 2002 年までの間、中国、フィリピン、マレーシア及びベトナムが関わる軍事紛争が 17 回生起しており、このことは、中国との 2 国間交渉だけではなく、関係国全てが協調しなければならないことを示している。従って、インドネシアは議長国として、DOC の更なる履行を求め、最終的には法的拘束力を持つ「行動規範」の実現を求めて努力する以外に、選択肢を持たない。

記事参照：Jakarta Eyes South China Sea
http://the-diplomat.com/flashpoints-blog/2011/02/23/jakarta-eyes-south-china-sea/

参考：「朝日新聞」とのユドヨノ大統領会見；
Yudhoyono to urge China to join talks
http://www.asahi.com/english/TKY201102180201.html

2 月 25 日「インド洋に新規参入者の余地なし―モルディブ大統領」（Sify.com, February 27, 2011）

モルディブのナシード大統領は 25 日、訪問中のインドで、モルディブとインドの特別な関係を強調し、インド洋に多くのプレイヤーが参入する余地はない、と述べた。

記事要旨：モルディブのナシード（Mohamed Nasheed）大統領は 25 日、訪問中のインドで、モルディブとインドの特別な関係を強調し、インド洋に多くのプレイヤーが参入する余地はない、と述べた。大統領は、域内における中国の進出意欲について問われ、「我々は、特に非伝統的な友好国（un-traditional friends）からのインド洋への軍事的あるいはその他の形での如何なる進出も受け入れない。インド洋はインド洋沿岸国のものである。我々は、インドとの間で極めて良好な関係を維持している」と語った。

記事参照：Not enough room for China in Indian Ocean: Maldives
http://www.sify.com/news/not-enough-room-for-china-in-indian-ocean-maldives-news-national-lczrkkbjehc.html

1.5　海運・造船・港湾

2 月 21 日「Maersk Line、超大型コンテナ船発注」（Sea News, February 25, 2011）

デンマークの海運大手、Maersk Line は 21 日、超大型のコンテナ船 10 隻を、総額 190 億米ドルで韓国の大宇造船海洋に発注した、と発表した。新型船、“Triple-E” は、同社運航の最大のコンテナ船よりも 2,500 個も多い 1 万 8,000 個のコンテナを積載でき、史上最大のコンテナ船となる。1 番船は 2013 年の就役が予定されており、アジアと欧州間の航路に投入される。

記事要旨：デンマークの海運大手、Maersk Line は 21 日、超大型のコンテナ船 10 隻を、総額 190 億米ドルで韓国の大宇造船海洋に発注した、と発表した。更に 20 隻の追加発注のオプション付きである。新型船、“Triple-E” は、同社運航の最大のコンテナ船よりも 2,500 個も多い 1 万 8,000 このコンテナを積載でき、史上最大のコンテナ船となる。新型船は、現有船より、コンテナ 1 個当たりの燃料消費が 50%少ない。1 番船は 2013 年の就役が予定されており、アジアと欧州間の航路に投入される。

記事参照：The Danish armada: Maersk orders ten colossal vessels
http://www.seanews.com.tr/article/TURSHIP/CONTAINER/54291/Maersk-Danish-armada/

“Triple-E”
Source: Sea News, February 25, 2011

1.6　海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

2 月 4 日「インドネシア、スリランカとの漁業協力強化へ」（Asian Tribune, February 4, 2011）

インドネシアとスリランカの両国の漁業担当相はこのほど、コロンボで会談し、漁業分野での 2 国間協力を強化することになった。

記事要旨：インドネシアとスリランカの両国の漁業担当相はこのほど、コロンボで会談し、漁業分野での 2 国間協力を強化することになった。両相はこの会談で、漁業貿易、漁業訓練の実施、専門家の交流などの面で協力関係を強化するために、2011 年第 1 四半期内に、漁業開発協力協定を締結す

ることで合意した。スリランカの漁業担当相は、世界的漁業大国であるインドネシアから技術協力を得ることで、自国漁業の発展に大いに役立つであろう、と語った。

記事参照：Indonesia is to assist in Sri Lanka's Fishery Development
http://www.asiantribune.com/news/2011/02/03/indonesia-assist-sri-lanka%E2%80%99s-fishery-development

2. 情報分析

解　題
『南シナ海における最近の進展：慎重な楽観論の根拠？』

オーストラリア国防大学（The University of New South Wales at the Australian Defence Force Academy）のカーライル・セイヤー（Carlyle A. Thayer）教授は 2010 年 12 月、シンガポールのラジャラトナム国際関係研究所（*Rajaratnam* School of International Studies: RSIS）のワーキングペーパーとして、『南シナ海における最近の進展：慎重な楽観論の根拠？（"Recent Development in the South China Sea: Grounds for Cautious Optimism?"）』と題する 33 頁の論文を発表した[1]。

この論文は、以下の 4 つの問題を取り上げている。①中国政府関係者による「核心利益」発言と米中の海洋戦力を巡る対立。②ASEAN 地域フォーラム（ASEAN Regional Forum: ARF）や ASEAN プラス 8 国防相会議（ASEAN Defence Ministers Meeting Plus Eight: ADMM Plus Eight）などに見る南シナ海の問題に関する外交舞台での駆け引き。③南シナ海での海洋権益を巡る中国とベトナムの折衝。④中国・ASEAN ワーキング・グループにおける「南シナ海における関係諸国行動宣言」（the Declaration on Conduct of Parties in South China Sea）を巡る論議の状況。

解題では、まずセイヤー自身が追跡、調査した「核心利益」発言を巡る真相を概観した後、論文の主題である「慎重な楽観論の根拠」に焦点を当てる。この論文は取り上げている事柄の時系列が前後しており、南シナ海問題の「慎重ではあるが楽観的な見方」に辿り着く流れが少し分かりづらい。従って、解題に当たっては、経緯が分かりやすいように情報を抜粋、整理して、その要点を示した。

１.「核心利益」発言の真相

先ずこの論文で注目すべきは、「核心利益」発言に関する真相追求である。セイヤーは最初に、「中国政府高官が米国政府高官に『南シナ海は中国の核心利益である』と実際に言ったか言わなかったのか？」という点について、調査している。そこでは、国際社会の耳目を集めた「核心利益」発言を巡って、中国が非常に神経をとがらせていることが分かり、興味深い。「核心利益」発言を巡る真相解明は、南シナ海の地政戦略的重要性を浮き彫りにするものであると同時に、米中の南シナ海を巡る戦略的思惑を端的に表しているという点で、南シナ海問題を理解するのに良い題材と言える。

きっかけは、ニューヨークタイムズ紙の北京特派員エドワード・ウォン（Edward Wong）が書いた 4 月 23 日付の記事である。この記事では、2010 年 3 月、中国政府の高官が米国政府の、ジェフリー・ベイダー（Jeffrey A. Bader）国家安全保障会議アジア上級部長とジェイムズ・スタンバーグ（James B. Steinberg）国務副長官に対して、「中国の核心利益の 1 つである南シナ海での妨害に対して、中国は寛容ではいられない」と述べたとし、この発言は、中国が南シナ海を台湾、チベットと並ぶ“a core interest”に分類したものであると論評した。

セイヤーは、2010 年 8 月に「以前、ある中国人から、南シナ海を『核心利益』に分類するという

[1] Carlyle A. Thayer, "Recent Developments in the South China Sea: Grounds for Cautious Optimism?," RSIS Working Paper No. 220, S.Rajaratnam School of International Studies, Singapore, 14 December 2010. This paper is available at following URL;
http://www.rsis.edu.sg/publications/WorkingPapers/WP220.pdf
セイヤー教授の専門は、東南アジアとベトナムの外交安全保障政策である。

のは中国政府の公式な政策ではない」とし、また 9 月には、「エドワード・ウォンの記事を引用した時に、外交諜報組織で長い経験を持つ批評家がニューヨークタイムズで最初に書かれた中国の主張は、後に関連のある米国政府当局者に否定されている」と紹介している。

その後、セイヤー自身がワシントンと北京で、この件について追跡、調査した結果について、以下のように述べている。

（1）3 月の中国と米国の高官の間で行われた会議の関係者に接触した、北京での情報提供者から、米国政府当局者は、「中国政府高官は、南シナ海について『核心利益』という言葉を使った。もちろん誰がこの発言をしたのかは、はっきりしない。例え発言が事実だとしても、それがどの程度、新しい政策の方向性に反映されるのかは分からない」との情報を得た。

（2）ワシントンの情報筋は、「中国政府高官は米国政府高官に対して、南シナ海を中国の『核心利益』だとは断じて言っていないと、米政府の中国担当チームが中国人のカウンターパートからロビー活動を受けている。私（ワシントンの情報筋）は、彼らが公式な米中もしくは多国間政府会議でそう言ったと確認できる公式な記録を持っていないので、（そこでの発言の有無を）確認できない。しかし、中国高官が南シナ海を『核心利益』と呼んだということは、はっきりとしている。彼らは繰り返しそう呼んできた。私は、米国政府当局者の誰かがニューヨークタイムズの記事を否認したのかということは承知していない。もしかしたら気がつかなかったのかもしれないが、私は知らない」と述べた。

その上で、セイヤーは、では一体、中国政府の誰が米国政府高官に「核心利益」発言をしたのかという疑問について、以下の諸点を指摘している。

（1）2010 年 7 月 30 日付けのワシントンポストの記事では、崔天凱（Cui Tiankai）中国外交部副部長が 2 人の米国政府高官に「130 万平方マイルの海の領有権は、チベット、台湾と同じように北京に属する」と話した、と報道している。一方で、中国の防衛・安全保障問題に関する公式見解に通じた情報提供者によれば、国務委員の戴秉国（Dai Bingguo）がベイダー・アジア上級部長に「海南島と周辺海域は『核心利益』である」と述べたが、南沙諸島を「核心利益」に含めなかったという。情報提供者によれば、「核心利益」発言が公にされた以上、中国国内のナショナリスト達の激しい反発を招く恐れがあったため、中国政府関係者がこれを完全に否定することは難しくなったという。

（2）2010 年 11 月に受けたインタヴューでヒラリー・クリントン（Hillary Clinton）米国国務長官は、2010 年 5 月に北京で行われた第 2 回米中戦略・経済対話で、中国高官から南シナ海を「核心利益」と見なしているという発言があったことを明らかにした。クリントン国務長官は、インタヴュアーからの「それをあなたに言ったのは戴秉国か」という問いに対し、「そう、その通り」と答え、「もし中国が国際法、航行の自由、海洋安全保障、隣国の主張を害するような要求や支配を試みているとしたら、これは重要な問題だった。だからこそ、我々は、直接的な影響を受ける多くの ASEAN 諸国と連携し、その結果として、南シナ海問題が法の原則に則って解決されるべき問題であることをはっきりさせるため、12 カ国が 7 月の ASEAN 地域フォーラムでこの問題を取り上げたのだ」と述べた。

（3）3 月の出来事に関する報道があって以来、中国政府当局者は、南シナ海を「核心利益」と見なすかどうかを曖昧なままにしている。例えば、2010 年 7 月のアジア安全保障会議（Shangri-la Dialogue）で、人民解放軍の少将は「南シナ海はチベットや台湾とは少し違う」と会議に出席した記者に述べている。しかし一方で、中国のメディアは、特に 7 月から 8 月の間、軍事力行使に

訴えてでも護るべきものとして、「核心利益」という用語を頻繁に使っていた。

セイヤーは、「核心利益」発言の結論として、「中国政府高官は、密談の時に他国の外交官に対して、この主張（「南シナ海は中国の『核心利益』である」）を何度も行った。しかも「核心利益」という用語は、頻繁に中国のマスコミの報道で使われている。「核心利益」という用語は、北京の南シナ海に対する戦略的な野望に関して今まで以上に懸念を引き起こすことになった。その後、中国政府当局者は発言を撤回し、現在ではそうした発言があったということを否定している。・・・しかしながら、もし中国の政治指導者が南シナ海を「核心利益」とすることに依然として執着しているとすれば、それは、北京がその主権を護るためには武力や軍事的圧力を行使するのを躊躇わないということを意味する」と指摘している。

２．南シナ海を巡る関係各国の思惑と対立

次にセイヤーは、2010 年に南シナ海を巡って噴出した関係各国の思惑と対立について、要旨以下のように指摘している。

（１）米中の海洋戦力を巡る対立

①オバマ政権による 2010 年 2 月の台湾への兵器売却再開宣言、3 月の韓国海軍フリゲート、「天安」の沈没事件後の米韓両国海軍による大規模な合同演習が、中国の激しい反応を呼び、それが 2010 年の米中関係を特徴付ける主たる要因となった。

②中国は、軍事海洋協議協定（Military Maritime Consultative Agreement）などのハイレベルな軍事交流を延期した。また中国は、大規模な海洋軍事演習を 4 月から 7 月にかけて 3 度、11 月に 1 度実施し、これら 4 回の軍事演習を通じて、第 1 列島線を越えて第 2 列島線にまで海軍力を展開させる能力を誇示した。

③それに対して米国は、中国の接近阻止・領域拒否（anti- access/area denial: A2/AD）戦略に対抗するため、グアム配備の戦力を増強すると共に、より規模が大きくより恒久的に防衛施設にアクセスするため、豪州との新しい協定を締結した。また米国は、中国の潜水艦戦力に対抗するため、攻撃型原潜 53 隻中、31 隻を太平洋に配備した。その内、18 隻の母港はパールハーバーで、残りはグアムである。またハワイには、第 5 世代の戦闘機、ラプターを配備している。さらに米国は、“Air-Sea Battle Concept” を中国の A2/AD 戦略に対抗するために開発している。

（２）アジア安全保障会議（Shangri-la Dialogue）

①ロバート・ゲーツ（Robert Gates）米国国防長官は、2010 年 6 月のシンガポールでの第 9 回アジア安全保障会議開催直前の北京訪問を要請したが、中国に断られた。更にゲーツ国防長官のアジア安全保障会議での発言は、中国の怒りを呼び起こした。ゲーツ長官は、グローバルコモンズに対する、開かれた、透明性のある、そして平等に利用する権利を要求した。南シナ海についても、「この海は、国境を接する国だけでなく、アジアに経済と安全保障に関する利害がある全ての国にとって極めて重要である」、「すべての当事者達は、慣習国際法に準拠して、平和的で多国間による努力を通じて紛争を解決するために、一致協力しなくてはならない。2002 年の『行動宣言』は、この方向への大事なステップであり、我々はこの協定の具体的な履行が継続されていくよう望んでいる」と述べた。

②他方、2010 年の会議に出席した中国代表、民解放軍総参謀部副参謀総長、馬暁天（Ma Xiaotian）空軍中将は、米中の軍事交流が中止になったのは、米国による台湾への兵器売却、中国の排他的経

済水域内での米国の偵察活動、そして人民解放軍への協力活動を抑制する米国の国内法のせいだ、と非難した。

（３）ASEAN 地域フォーラム

①2010 年 7 月に開催された第 17 回 ASEAN 地域フォーラムの前に、ASEAN 諸国の一部は、米国に対して、南シナ海に関する声明を出すように求めた。これに米国は積極的に反応し、事前にロビー活動を行った。クリントン国務長官が会議の場で、南シナ海における紛争を多国間による取り組みによって推し進めようとした際に、楊中国外相から激しい非難を受けた。米国と中国の間で激しいやり取りに、会議の場に緊張が走ったという。

②中国は、米国が南シナ海問題をより大きな国際的な問題として提起しようと計画し、ASEAN 諸国に働きかけていたことに気付いていた。中国は、2 国間で南シナ海のそれぞれの主張を解決するべきだと主張してきた。ところが、会議参加国 27 カ国中、11 カ国（ブルネイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、インド、インドネシア、シンガポール、オーストラリア、ヨーロッパ連合、日本、韓国）が米国に同調して海洋安全保障問題を議題として取り上げたことに、中国の楊外相はショックを受けた。楊外相は、米国やベトナム、シンガポールを非難し、北京に反抗しようとする東南アジアの国々に対して経済的懲罰を与えると演説した。

（４）米国 ASEAN 首脳会談

①2010 年 9 月 24 日のマニラでの 2 回目の米国・ASEAN 首脳会談が開催される前に、米国による共同声明の草案のコピーが、メディアによって流出した。その内容には、参加各国首脳が「南シナ海に関して自国の主張を強要するための、いかなる当事国による武力の行使や軍事的圧力にも反対する」との文言が盛り込まれ、そして南シナ海における航行の自由、地域の安定、国際法の遵守と妨害のない交易の重要性が強調されていた。米国と ASEAN 諸国は、2002 年の「行動宣言」の完全履行に対する支持や「行動規範」の締結実現に向けて努力することで一致していた。しかし、公式の共同声明には、武力の行使及び軍事的圧力に対する言及は抜け落ちており、しかも「南シナ海」という呼称にも触れていなかった。

②何故、共同声明は骨抜きにされたのか。米国・ASEAN 首脳会談は、中国漁船が 2 隻の日本の海上保安庁の巡視船に衝突したことで、北京と東京の間に緊張が高まっている時期に開催された。日本が中国漁船の船長を拘留したことによって、中国は、非常に攻撃的な態度を示し、何らかの行動を起こすと脅した。こうした中国と日本の対立が、米国と ASEAN 諸国との議論に影を投げ掛けたのである。しかも、米国・ASEAN 首脳会談の 3 日前に、中国外務省報道官は、「米国と ASEAN によって発表される可能性のある南シナ海に関するいかなる声明に対しても懸念している。緊張を高め、争いと挑発を仕組むような言葉や行動は、平和と発展を望む域内各国共有の願いに反する」、「南シナ海問題とは関係ない国がこの紛争に関与することに強く反対する」という声明を発表していた。そのような状況に配慮して、ASEAN 諸国の一部は、今はまだ中国とさらに敵対する時ではない判断し、首脳会談前に発表された中国の声明が、望み通り ASEAN 諸国に米国の草案をトーンダウンさせることになった。

（５）ASEAN 防衛相プラス８

①2010 年 10 月 12 日に開催された第 1 回 ASEAN 防衛相プラス 8（ADMM Plus Eight）の前日、中国国防部外事弁公室副主任・関友飛（Guan Youfei）少将は、南シナ海における緊張が高まっているのは中国の責任ではないとし、その責任があるのはこの問題について声を荒げている他の国々であり、それらの国が言っていることは事実ではない、と主張した。

②ADMM Plus Eight の前日、ベトナム国家大学（Vietnam National University）でゲーツ米国防長官は、領土紛争を排外的な 2 国間の関係に頼るのは不適切であるとし、多国間のアプローチが必要であると指摘した。ADMM Plus Eight 終了後、中国の梁光烈（Liang Guanglie）国防相は、調整の難しい多国間の枠組ではすべての問題を解決するのは難しいと、ゲーツ発言に反駁した。参加 7 カ国―米国、日本、韓国、豪州、マレーシア、シンガポール及びベトナムは、南シナ海の領土紛争に関して懸念を表明した。

３．関係各国の歩み寄り

セイヤーは、2010 年 9～10 月にかけて徐々に南シナ海問題を巡る国際会議での空気に変化が見られるようになり、ADMM Plus Eight において対立の一方で、協調を求める動きも見られるようになってきたことについて、要旨以下の諸点を指摘している。

（１）ADMM Plus Eight

①ADMM Plus Eight にはゲーツ国防長官と梁光烈国防相が出席し、会議前日の 10 月 11 日に両者は 50 分間会談した。この会談で、梁国防相は、ゲーツ国防長官に対して、2011 年の早い時期に北京を訪問するよう招待した。両者は、米国の台湾への兵器売却によって凍結していたハイレベルの軍事交流を再開することに合意した。

②ゲーツ国防長官はメディアに対して、「最近の中国の海洋における行動は確かに全ての関係者が気にかけていることだが、中国の行動は、海洋安全保障の諸規定に従っている」と述べている。一方、ベトナムの国防副大臣、グエン・チー・ビン（Nguyen Chi Vinh）中将は、「これまでに良い進展があった。南シナ海に関しては、この会議の議題にはなっていないが、参加各国の国防大臣は演説の中で、自由にこの問題を取り上げている。今や、好ましい機運が生まれてきていると思う」と評価した。

③参加 18 人の国防大臣による共同宣言は、地域における具体的な防衛・安全保障協力を謳っている。共同宣言は、「ADMM Plus Eight の枠組における実務的な協力の可能性、展望、方向性に関する討議文書」（the Discussion Paper on “Potential, Prospect, and Direction of Practical Cooperation within Framework of the ADMM-Plus”）を含む、新たな取組みを歓迎した。この討議文書は、可能な協力分野として、脅威力文人道支援と災害救助、海洋安全保障、軍事医学、テロ対策、及び平和維持活動という 5 つの分野を挙げている。そして、これら決定の具体化に向けて、5 つの専門家によるワーキング・グループの設置を目的として the ASEAN Defence Senior Officials’ Meeting Plus（ADSOM Plus）が創設された。

④米中両国は、10 月 14 日から 15 日にかけてハワイで海洋安全保障に関する話し合いを行った。この会議では、公海において海軍軍艦同士が接近した時の安全面に関して話し合われた。米中軍事関係の進展は、胡錦濤主席の米国訪問が報じられ、両国の政治関係が大きく改善に向かったのと同時進行であった。

（2）中国・ASEAN ワーキング・グループ

2010 年上半期は、南シナ海における「行動宣言」の履行に向けて、実質的な進展がなかった。しかしながら、在フィリピン中国大使劉建超（Liu Jianchao）が明らかにしたところによれば、10 月になって、南シナ海における「行動規範」のドラフトが ASEAN 加盟国の実務者レベルで協議されている。中国はこれまでは公式な「行動規範」を拒絶していたが、現在は異なるやり方や構想を受け入れる用意があると、劉大使は和解の意を示した。中国は、国家主権のようなセンシティブな問題に関しては、ASEAN 加盟国と交渉した方が米国の干渉よりもましだと計算したのかもしれない。

４．結論部分

セイヤーは、結論部分において、2010 年下半期の米国政府高官の言葉を引用し、それを根拠に米中間にあった緊張は緩和されたこと、そして短中期的に見て、南シナ海における信頼醸成措置の履行化に向けて進展する可能性が高いことを、慎重な楽観論の根拠としている。しかしながら、セイヤーは一方で、①大国同士の南シナ海を巡るライバル関係は容易ではなく、②事実中国は領有権の主張を強め、より多くの漁業監視船を建造し、③軍事力増強に関する透明性の欠如はその戦略的意図に対して疑念を起こしている、と注意喚起している。更に、「米国はアジアにとって必要であり、米国は中国が代わりを務めることができない地域の平和を維持するという役割を演じている」との、シンガポールのリーシェンロン（Lee Hsien Loon）首相の発言を引用している。要するに、セイヤーが指摘するように、領有権の主張は依然として扱い難い問題であり、大国間の対立はこれからも東南アジアに伝播し続けるということである。

５．コメント―日本への含意

セイヤーは、「尖閣諸島中国漁船衝突事件」については、一部の事象を除いて特に詳しく分析しているわけではないが、このワーキングペーパーからは、日本と中国との間で起ったこの事件の推移に世界の耳目が注がれていた 9 月から 10 月にかけて、中国政府が展開した対日外交、即ち、レアアースの輸出差し止め措置、中国本土で日本企業の日本人社員の拘束などの粗暴な振る舞いが強烈な印象を国際社会に与え、それに前後して南シナ海の主権問題に関わるキープレイヤー達が事態の軟着陸を除々に目指すようになった、という流れが読み取れる。中国外交の野蛮な対応に、米国は驚き、ASEAN 諸国は怯え、その結果中国は国際社会からの孤立を恐れたということであろう。

セイヤーは、ADMM Plus Eight が開催された 9 月から 10 月頃にかけての各国の歩み寄りや政府関係者の発言、「行動規範」の実現に向けての前向きな姿勢、そして関係国際会議での声明などを、「慎重な楽観論」の根拠としているようだが、背景についてはそれほど詳しく論じている訳ではない。しかし、外交舞台でのやり取りが好ましい方向に向かったきっかけの 1 つが中国政府の野蛮な振る舞いであったということは皮肉であり、その点については見逃すべきではない。果たして「雨降って地固まる」のであろうか。中国の行いには用心深く対応し、様々な手段を講じておかなくては、近年の中国の国力の伸長具合や共産党政権による積極的かつトップダウンの迅速な国家戦略の展開を俯瞰的に見れば、ゆっくりと確実に進んでいる新しい華夷秩序、即ち東アジアにおける中国優位下での勢力均衡を結果的には是認することにならないだろうか。だからこそ、セイヤーは「慎重な楽観論」としたのであろうが、中国大陸と向かい合う日本人にはさらなる慎重さが求められるだろう。

いずれにせよ、一般的な日本人は南シナ海を巡る紛争についてさほど関心はないかもしれないが、尖閣問題などでの我々日本人の対応が、国益を巡る激しい駆け引きを行っている「兵器を使用しない

戦争」である外交の場に様々な影響を与えていることを自覚する必要がある。

中国は、地政戦略的に南シナ海を非常に重要視している。「核心利益」発言は、一部の中国人の本音、中華思想とその戦略文化が織り交ざった攻撃的な姿勢の発露であると考えられる。中国の外交・安全保障の歴史や中国の政治文化を考えた場合、一時期の彼らの言動を切り取ってそれを一喜一憂することなく、我々日本人は常に慎重には慎重を重ね中長期的な戦略を練り、高いガードを保っていかなければならない。

かつては長きにわたって大陸との間に横たわり防壁の役割を果たした日本列島の四方を囲む海洋は、今日では利用できる者にとっては柔軟で多様な兵力投射を可能にする「戦略的空間」になり、しかも資源を巡る争いの場へと著しい変化を見せている。そしてその海洋空間でのパワーを、その戦略眼と集中力をもって増強しているのが隣国中国であることを肝に銘じておくべきである。

（文責　関根大助　海洋政策研究財団研究員）

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

（（財）シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています）